各自治区の見どころ

新城区
1 大杉さん（おおすぎ） 2 観音堂（かんのんどう） 3 魔涯仏（まがいぶつ） 4 永福寺（えいふくじ） 5 岩神社と岩上遊園地（いわがみじんじゃ いわがみゆうえんち）

中畑区
6 長敬寺（ちょうきょうじ） 7 日枝神社（ひえじんじゃ）

嶬峨区
8 浄福寺（じょうふくじ） 9 千光寺（せんこうじ） 10 堂頭行い（どうとうあこな）
11 千光寺（せんこうじ） 十一面千手観音菩薩立像（じゅういちめんせんじゅかんのんぼさつりゅうぞう） 12 八坂神社（やさかじんじゃ）
13 的山（まとやま） 14 嶬峨西城跡（ぎがにしじょうせき） 15 嶬峨城跡（ぎがじょうせき） 16 西蓮寺の子安地蔵尊（さいれんじ こやすじぞうそん）

和野区
17 天満神社（御弓の行）（てんまじんじゃ おゆみ ぎょう） 18 平野城跡（ひらのじょうせき） 19 意賀寺（いがじ） 20 道標（みちしるべ） 21 修善寺（しゅうぜんじ）
22 無患樹の古木（むくろじ こぼく） 23 八幡神社（はちまんじんじゃ） 24 八幡神社（山の口ーどんど祭ー）（はちまんじんじゃ やまぐち さい）
25 津島神社（花奪）（つしまじんじゃ（はなばい）） 26 香林山長福寺（こうりんざんちょうふくじ） （十一面観世音菩薩立像）（じゅういちめんかんぜおんぼさつりゅうぞう）
27 標石（ひょうせき） 28 長福寺 鐘楼（ちょうふくじ しょうろう） 29 弥勒菩薩石像（みろくぼさつせきぞう） 30 伊佐野城跡（いさのじょうせき）

今郷区
31 弁慶岩（べんけいいわ） 32 宝善寺（ほうぜんじ） 33 浄土寺（じょうどじ） 34 今郷一里塚（いまごういちりづか） 35 経塚（きょうづか）
36 おんば城跡（じょうせき） 37 東海道水口宿（とうかいどうみなくちじゅく） 38 稲川の湧水（いながわ わきみず）

自然豊かな里山と「名所・旧跡」めぐり

自治振興会 いわがみ Iwagami Guide Map

西が瀬 中畑 つつじが丘 今郷 城が丘 和野 新城 嶬峨

岩上自治振興会

いつも わきあいあいと
がんばっている みんなのいわがみ

岩上地域は甲賀市のほぼ中央、水口町の東南部に位置し、鈴鹿の山並みから連なる水口丘陵地で比較的平坦な地形で、地域の中心に位置する清らかで豊かな野洲川の流れに沿って開かれた里山が連なる自然豊かな地域です。また、同じく地域の中心に旧東海道が位置し、日ごろより全国から散策の人が絶えません。

新たなコミュニティ組織として2010年設立された岩上自治振興会は7つの区と1自治会からなり、多数の寺院が存在し古くから続く祭礼や地域行事が四季を通じて今も行われています。

このマップに記載された記事は、各区域の代表的なものであり、まだ数多くの名所史跡が残されています。広い田園風景と里山が広がるのどかなところで、ハイキングやサイクリングで、またカメラや双眼鏡片手に散策に是非お越し下さい。

岩上自治振興会 総合企画・広報部会
URL http://www.iwagami-zs.jp
お問い合わせ先：自治振興会事務局 TEL 0748-62-7052
滋賀県甲賀市水口町新城５５７番地

散策 Guide Map 八ヶ岳

歴史・史跡 / 名所 / ドライブポイント / 史跡

このガイドマップに記載の説明文章は、一部「甲賀市または各地区の郷土史」等から抜粋したものが含まれています。

1 大杉さん（おおすぎさん） 新城

新城と秋葉の境、旧東海道の南に面し、立場山北麓丘陵の突端に５００年は経とうかと思われる老い杉の大樹があります。

この地は昔、処刑者のあ仕置き場であったと伝えられており、「東美濃郡見付けの仕置き場」あるいは「一本杉の刑場」とも言い伝えられてきました。菩提を弔うため、高さ２ｍ余りの供養搭らしき石塔が建っています。文字は磨滅してあり、判読できませんが、この場所を「石塔さん、大杉さん」と呼んでいます。後世東保年中に至り、新田開発のころ、月ケ上（旧町名で現在秋葉と言う）住民一同相寄り正面供養搭の傍らに石灯篭を建て、往時の刑死者を弔ったとあります。その銘に「月ケ上町中享保四已亥年四月朔日」と見えます。月ケ上の住民はじめ、近隣の人達は「石塔さん」と呼んで８月２４日の地蔵盆には百万遍を唱えて供養し、冥福を祈り、合わせて地域社会の発展と人々の幸せを祈願されます。

2 観音堂（かんのんどう） 新城

本尊は、馬頭観音。御開帳は２年に一度、偶数年の８月１７日です。毎年８月１７日には馬頭観世音祭りが行われています。

天水寺址は水口町大字新城里俗ちょうすいというところにありました。僧最澄の創立にて天台宗に属し、天正年間兵火に遭い、本尊である馬頭観音が現在の八幡神社境内にある観音堂に保存されました。観音堂には二百余りの奉れ小絵馬が奉納され、特に水口宿の旅籠（はたご）や宿役人など東海道の往来によって生計を立てた人々から奉納されたものといわれています。奉納の盛期も、東海道利用の衰微と重なることから江戸時代の交通に関わる民族資料として貴重です。

3 磨崖仏（まがいぶつ） 新城

野洲川の川岸に立つ自然石に像高６０ｃｍ「地蔵菩薩」１体と「宝篋印搭（ほうきょういんとう）」４面が浮き彫りされています。「宝篋印搭」は東面、西面、南面、北面に１面ずつあり、いずれも約７０ｃｍの搭高があります。いつ、だれが、何を願って刻んだのかはっきりしませんが、危険な筏流しの安全を祈願したものか、あるいは、室町時代に建立された「宝篋印搭」などは死者の霊を供養するものとして盛んに建立されていたので、そうしたものかもしれません。いずれにしろ、祈りの造形物として史跡に指定されています。現在は近隣住民により、地蔵盆の日にお参りがあります。

野洲川では、奈良時代の昔から戦前まで材木を運搬する筏流しが盛んに行われていました。明治初期には「土山宿」の西口より、栗東の伊勢落（いせおち）まで乗合船の便がありました。夜明け前に出航すれば１時間に２里（約８キロ）の速度で下り、伊勢落から、その日のうちに京都に到達したようです。乗合船は高瀬船に身を任せ、川岸の景勝を楽しみながらの川下りは遊覧船の趣があったと思われます。

4 日照山（にっしょうざん） 永福寺（えいふくじ） 新城

「絹本著色阿弥陀如来四尊来迎図」は鎌倉時代のもので、水口町指定の文化財になっています。

9 千光寺（せんこうじ） 櫛岐

奈良時代、行基の開墓と伝えられる天台宗の寺院です。

5 岩神社と岩上遊園地（いわじんじゃといわがみゆうえんち） 新城

旧東海道の岩上には、野洲川にかかっている岩上橋のところの山手に巨岩がそびえ立ち景勝の地でありました。茶店もあって人々の足を止めるところであったということです。寛政９年（1797年）に刊行された「伊勢神宮名所図絵」には、この地を名所として絵入りで紹介されています。

この巨岩が岩上神社（岩神社）です。昔この近郷の人は、「生まれた子を母親か血族の者が抱いて、この岩の前に立って道行く旅人に名をつけてもらいまた、この岩を拝ませると長生きする」と信じられていたとのことです。

岩の上には広場があり、藤や桜が楽しめ、眼下には野洲川が眺められます。昭和３１年には野洲川ダム頭首工が完工し、この一帯は岩上遊園地と呼ばれ遊泳、釣魚、ボート遊び等往民の憩いの場でありました。

6 長敬寺（ちょうきょうじ） 中畑

本寺は元天台宗なりしが戦国の時代廃絶しています。天和３年（1683年）に再興し、武田山と称し大谷派に属します。

本尊は「阿弥陀如来」です。

7 日枝神社（ひえじんじゃ） 中畑

坂本日吉神社の分神として古来山王明神と称していましたが、明治３年、現在の社名に改められました。

当地は住古新任の一部でありましたが、佐々木氏所領の時代、文明元年（1469年）独立分村して、その産土神となりました。

8 浄福寺（じょうふくじ） 櫛岐

13 的　山（まとやま） 櫛岐

毎年１月に八坂神社で行われています。昔は男社会でしたので長男の元服の儀式として行われていました。子どもの健やかな成長と各家の繁栄と隆昌・地区の安泰を願い実施されています。神仏住み分けの考えのもと、長男の成長を願う儀式が神社で行われるようになったと思われています。

16 西蓮寺の子安地蔵尊（さいれんじのこやすじぞうそん） 櫛岐

1493年、櫛綺地区の東上平にあった西念寺を西蓮寺に合併し、西念寺の本尊を西蓮寺の本尊としました。そのため、西蓮寺の本尊である子安地蔵尊は別室に安置されました。霊験あらたかで崇拝する人も多く、毎年８月２３日・２４日の地蔵盆会に開帳されます。

西蓮寺の入口には由緒を記した石碑が設置されています。

17 天満神社（てんまじんじゃ） 御弓の行（おゆみのぎょう） 和野

祭神は菅原道真。祭神が文武両道をきわめた菅原道真であることから、御弓の行が始まったといわれています。境内に張られたしめ縄につるされた木札には、江戸安政（1854年～）の頃からの記録が残っています。毎年３人が当番で古式の装束をまとい、的に対して横一列で位置を交替しながら２本の矢を放ちます。

19 慈願寺（いらいじ） 和野

21 慈費山（じひざん） 修善寺（しゅうぜんじ） 和野

20 道標（みちしるべ） 和野

「右八水口、左八ふかわみち」

市内最古の年号をもつ道標で、和野集落の中央に立っています。宝永２年（1705年）の紀年名であることから、近江で３番目のものになります。

高さ５０ｃｍとやや小柄な自然石、昭和４４年の夏、甲賀高校（現水口高校）社会部は孝弘岩が田に埋まっているのを発見しました。

24 八幡神社山の口（どんど）祭（はちまんじんじゃ　やまのくち） 和野

毎年１月５日に各家（長男跡継ぎ）３軒で順番に宿を努めます。夕刻より子どもたちが集まり、翌早朝に力がり火とともに神社へ行き、祭典後「どんど」を焼き、豊作祈願・健康成就を祈念する行事が行われます。

31 弁慶岩（べんけいいわ） 今郷

武蔵坊弁慶が旅の途中、東漸寺（新城から今郷に続く通称東漸寺山にあったとされる）に参詣した折岩上までくると大きな岩があったので、背比べしましたが、岩のほうが三尺（約１ｍ）ほど高かったので腰を立てた弁慶は、高いとこうだけげんこつで殴りました。すると大きな岩は１００メートルほど吹っ飛んでしまいました。飛ばされた岩がこの岩です。

32 宝善寺（ほうぜんじ） 今郷

はじめ真言宗に属し、名坂の大池寺に属していましたが、のちに浄土宗に改め、安土町の浄厳院の末寺でした。しかし、天正７年（1569年）兵火にあい焼失したので再建されました。ところが明治３３年９月４日、落雷のため再び焼失し明治３６年２月に造営されました。本尊は阿弥陀如来。

33 浄土寺（じょうどじ） 今郷

延宝９年（1680年）に創建されました。本尊は阿弥陀如来。

34 今郷一里塚（いまごういちりづか） 今郷

一里塚は、江戸幕府が旅人の目印として整備したものです。東海道の日本橋を起点として一里（約４Ｋｍ）ごとに築かれた塚（土盛り）。今郷の一里塚は日本橋から１１２里。ここで多くの旅人が休憩をしたのでしょう。

35 経　塚（きょうづか） 今郷

昔、このあたりは林で獣のような化け物が出たということです。延暦２０年（801年）、比叡山を開かれた伝教大師最澄上人がきて、浄土寺門前（今郷）の坂道で大般若経を読経されたところ、化け物が出なくなり、村人はそのお経を土中に埋めたということです。その話が伝わって、いつしか「経塚」というようになったということです。

37 東海道水口宿（とうかいどうみなくちじゅく） 今郷

旧東海道水口宿　東の玄関口

27 標　石（ひょうせき） 和野

香林山　長福寺の豊場近江西国二十八番札所、甲賀二十五番札所となっています。

26 香林山（こうりんざん）長福寺（ちょうふくじ） 十一面観世菩薩立像（じゅういちめんかんぜんぼさつりゅうぞう） 和野

創立年紀は不詳　香林山と号する享保２１年（1736年）長福寺本堂再建されました。近江西国二十八番、甲賀二十五番札所です。本堂は現在の八幡神社境内にありましたが、明治３１年と昭和２年の二度にわたり焼失し本堂は現存しなく鐘楼だけその姿を残しているものの、本尊は、現在修善寺の一室に奉安されています。

十一面観世菩薩立像は江戸時代後期の作といわれています。舟形の光背、蓮華座、持物、頭頂の化物は後補。構造は一木作風であるが詳細は不明。

28 香林山（こうりんざん） 長福寺（ちょうふくじ） 鐘楼（しょうろう） 和野

長福寺で唯一現存する建造物となっています。

29 弥勒菩薩石像（みろくぼさつせきぞう） 和野

長福寺のなごりの石仏で、裏面に享保７年（1722年）建立の年号が刻まれています。

38 稲川の湧水（いながわのわきみず） 今郷

稲川の湧水は、正保４年（1647年）水口城代の部下であった山口重成が、旅人のため飲み水を引きました。重成の子重生が石碑を建て、現在も残っています。この湧水については、「平景清の目洗い水」との言い伝えがあります。

源平時代の武将平景清は、大男で怪力の持ち主。「悪七兵衛」という名前で人々を驚かせた景清は、戦で目を負傷し東海道を逃げる途中、稲川橋の下で旅人がうまそうに水を飲むのを見て、その水で目を洗いました。するとたちまち血涙が止まり苦痛も治ったということです。いつしか村人たちはこの水を「景清の目洗い水」と言うようになったということです。この水は湧水で、今も自然に湧き出ています。

36 あんば城跡（あんばじょうせき） 今郷

元武・建武（１３３１～１３３６年）のころ、備俣氏の城が、または甲賀武士　大野中務入道が、永享年間（１４２９～１４４１年）大野城に移る前に住んでいた城ともいわれているが定かではありません。

現在、高さ２間の築提が残っています。

12 八坂神社（やさかじんじゃ） 櫛岐

奈良時代の大宝元年に創建されたと伝えられています。本殿は桃山時代のもので、国の重要文化財に指定されています。

参道の紅葉は見事です。毎年４月末または５月１日に春の例祭が行われ、神輿が氏子に抱がれ野洲川を渡ることで知られています。

11 千光寺 十一面千手観音菩薩立像（じゅういちめんせんじゅかんのんぼさつりゅうぞう） 櫛岐

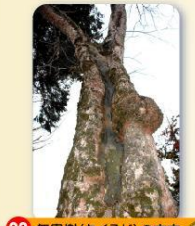
本尊の木造十一面観音立像は、平安末期の作で、国の重要文化財に指定されています。

14 櫛岐西城跡（ぎかにしじょうせき） 櫛岐

櫛岐中村集落の南西の丘陵、滋賀ゴルフクラブのコース内にある。櫛綺城の支城とみられています。

15 櫛岐城跡（ぎかじょうせき） 櫛岐

櫛岐上田集落の南、玉泉寺の裏山「山屋敷」にあります。六角氏の重臣として活躍した櫛岐氏の城。



22 無患樹（むくろじ）の古木 和野

樹齢約４５０年木の周りが３ｍ７０ｃｍ根の周りは７ｍ５０ｃｍ。八幡神社務所前にあり県内でも珍しい古木です。

23 八幡神社（はちまんじんじゃ） 和野

祭神は応仁天皇。もと天台宗長福寺（近江西国札所）が同所に存在していました。古い様式を留める下馬橋があります。本祭は９月１５日また祇園祭など民族行事も多彩であります。境内神社として貴船・天満・金毘羅の各社がありましたが、大正１５年、若宮八幡神社に合祀されています。現在は若宮八幡神社（正面から向かって左殿）津島神社（同右殿）の二社。

25 津島神社（つしまじんじゃ） 花奪行事（はなばいぎょうじ） 和野

祭神は須佐之男命。毎年７月７日に例祭が行われています。祇園の花笠が氏子より献上され、花奪行事（はなばい）が行われます。この祭りの行事は平成３年に県の無形民俗文化財に指定され、花笠は甲賀市の民俗資料館に展示されています。